

第21回 第3分科会会議録(概要)		場 所	新宿区役所第1分庁舎 研修室
日 時	平成18年5月9日 午後6時30分～午後9時00分	記録者	【学生補助員】 蛇石、羽場
		責任者	区事務局(黒澤)
会議出席者：40名 傍聴者2名 (区民委員：29名 学識委員：2名 区職員：6名 コンサル：3名)			
配布資料 <ul style="list-style-type: none"> • 第3分科会(第21回)次第 • 第2回最終提言ワーキンググループまとめ • 第3分科会としての提言書(案) <ul style="list-style-type: none"> ・水辺と森の環 ・車中心から人間中心へ ・安全安心なまちをつくる ・文化歴史を都市の軸にする ・いのちをまもる ・ぶらり新宿 ・われらの新宿 • 第3分科会(第20回)会議録(概要) 進行内容 <ol style="list-style-type: none"> 1 第2回最終提言ワーキンググループまとめ 2 提言書について 会議内容 【発言者】 : 区民委員、 : 学識委員、 : 区職員、 : コンサル : 外部講師 :(配布資料確認) <ol style="list-style-type: none"> 1 第2回最終提言ワーキンググループまとめ(4月28日)について <ul style="list-style-type: none"> : 第3分科会から、大西、窪田さんが出席。 最終提言の役割分担について 式次第の内容について (次回5月19日 19時からワーキンググループ打合せ) 2 提言書について <ul style="list-style-type: none"> : 最終提言書に入ります。 ・土地の記憶の再生と創造 水辺と森の環(第3分科会単独中項目) 景観は区民共有の財産(第3分科会単独中項目) ・くらしを守り、いのちを育てる 			

地域に住み続けられる住宅・住環境（第3分科会単独中項目）
公園・公共施設をみんなで育てよう（第3分科会単独中項目）
安全安心なまちを作る（第6分科会が主担当）

・楽しもう新宿

道草をしたくなる楽しいまち（第5分科会が主担当）

ぶらり新宿（第5に渡す前）

車中心から人間中心へ（第3分科会単独中項目）

・われらの新宿

それでは、それぞれ執筆された方から、ご報告をお願いします。

:

水辺と森の環

- ・豊かな持続可能な社会へ向うにはまちづくりはどうあるべきかという観点から考えた。
- ・水辺の豊かなまちであった新宿を多くある藩邸の庭園、水辺の回廊
- ・失われつつある水辺の再生で、剃刀堤防を親水性に富んだ碁盤したり、暗渠部を開局するなどして親水性に富んだ遊歩道を作る。外濠に侵食してきている都市機能を強制力を使って都市機能の移転の処方策の推進する必要。
- ・玉川上水の復活
- ・首都高とJRの地下化の推進の要請
- ・新宿の森と水辺の再生をして、都市の中にさわやかな風を起こしていく。
- ・新宿の外輪の失われた水辺を取り戻し、将来に継承していくべき水辺と新宿の森を緑の回廊で包む。公共施設の緑化、用地取得の為に、行政、大学、企業、NPOが主体的に関わってくることが重要。

文化・歴史を都市の軸にする

新宿の森：7つの森と旧藩邸（新宿中央公園、落合斜面緑地、戸山公園、早稲田大学周辺、外濠周辺、明治神宮外苑、新宿御苑、迎賓館周辺、東京女子医大周辺、総務庁第二庁舎周辺、区役所周辺、信濃町周辺、矢来町公園周辺、防衛庁周辺）

- ・界隈を生かしたまちづくりとして、歴史地区界隈を作る。
歴史地区界隈：路地文化のある、神楽坂界隈、荒木町界隈、早稲田大学界隈などの歴史の積み重ねがある地区。
- ・夏目漱石の漱石山房を新宿の文化歴史拠点としていく。
- ・文化歴史の道、坂を生かしたまちづくり
- ・歴史の掘り起こしと発信を区民の力でおこなう
- ・産業・居住の共存するまちづくり

第5分科会の原稿がまだ上がっていないため、次回に完成したものをお持ちしま

す。

景観は区民共有の財産

- ・将来のあるべき姿は第3分科会にはなかったもので、今まで議論にあった中で、将来的なこととして議論されていた景観権まで踏み込んだ理想的な形でまとめたもの。
- ・景観権として認めること、地域からの発想で景観計画を作っていく。
- ・景観を眺望や美観であるということだけに限らず、防災や子育てに目を向けるべきだということを他の分科会からの意見も踏まえて付け足した。
- ・今までの議論の提言の仕組みについての素案の表現が抽象的だったので、「する」「します」と具体的に書くように努めた。
- ・歴史建造物の保全と活用、再開発の歴史と伝統を生かしたまちづくり、超高層建築の計画とデザインに関するガイドライン作りに関する項目に関しては、執筆者の参加回数が少なかったため素案のままになっている。具体的に、「インセンティブの付加」などの内容をこれから検討を加えていって頂きたい。
- ・中間発表会の超高層のグループの発表を聞いて、だいたい入っていると感じたが、もうすこし具体的な形で書ければいいのではないかと思うので、ご意見をいただきたい。さらに加えていくべきと思っています。

地域に住み続けられる住宅・住環境

- ・第1分科会と第2分科会と話し合いをして、ユニバーサルデザインとバリアフリーとのすみ分けができた。
- ・第3分科会では子供から外国人まで含めてユニバーサルデザインということにしているという考え方が、第1、2分科会から中項目で若い世代から高齢者にかけて分けたほうがいいのではないかという意見があったので取り込んだ。

公園・公共施設をみんなで育てよう

- ・新宿区内にある公園の再生（再利用）について、行政が全て考えるのではなく、使う人達の観点で作っていかなければならない。全ての公園を地域で見直しをして、順次改善していくというスタンスでまとめた。
- ・公共施設ということについては特にはないが、歴史的な文化施設などと総括してより良いものに作り上げていくという考え方。
- ・公共施設とは特に、学校、ことぶき館、社会教育会館、図書館、文化センターなどの再利用の見直しをする。例えば、廃校などの場合、区が売ってお金にするという方向性ではなく区民の財産なので、地域の住民と話し合いをして十分活用していくような方向性を打ち出していきたい。
- ・社会教育会館とことぶき館の廃止の方向性について、3世代交流の事業というもので、3世代の交流が持てる場所作りをという事で今まである場所をどのように使っていけばいいか。

車中心から人中心へ

- ・なぜ自動車中心から人中心へという題名について、データでもって説明した。
- ・緑で風を通すということについて、前回、落葉樹の提案について落葉樹と針葉樹の違いがわかったので、その利点とそうでない点をあげた。
- ・幹線道路の幅員の範囲ごとに具体的に条件を付けていけばよいのではないかとということで具体的に表現した。
- ・LRTについて具体的な理由を載せた。
- ・バリアフリーとユニバーサルの考え方について、電動車イスの中にシニアカーが含まれるが、捉え方を検討課題として残してある。
- ・この他に具体的なコミュニティバスのルート、LRTのルート、緑の提案の地図を追加する予定。

いのちを守る（どう第3分科会の意見が反映されたか）

- ・最終提言に向けてハード面に関し、第3分科会の防災と第6分科会の地域の安全と一緒に考えた。
- ・コミュニティの面が多く、現状や課題の面も第3分科会の防災の観点から遠くなっている。
- ・もう一度、すり合わせをして調整したい。
- ・区への提言として具体的なものが欲しい。

ぶらり新宿

- ・ぶらり新宿は「道草のしたくなる楽しいまち」と合体することになった。
- ・「道草のしたくなる楽しいまち」の中に第3分科会の意見が反映されている。
- ・「ぶらり新宿（賑わい、活性化、情報化）」を書いた理由として、将来あるべき姿が二つに分かれていたので、まとめて4つの項目にした。
- ・現状と課題について、ソフトとハードと分けて整理した。
- ・新宿駅周辺の地図については、「道草のしたくなる楽しいまち」に入っていないので、入れて欲しい。

われらの新宿

- ・第6分科会とのすり合わせについては、原則として加える方向で、削除しない。
- ・「地区で考え地区で行動しよう」で、地域ニーズがまちづくり、都市計画に反映されていないのは、市民の十分な参加がうまく仕組みとして入っていない。
 - ・地域間の協働意識が希薄である。（景観、交通問題、境界部分の整合性）
 - ・地域の分権を認めて欲しい。その制度づくり。
 - ・地区協議会を地区のマネジメントの核とする。
 - ・地区協議会の活動を担保する制度を作る。
 - ・地区協議会のマネジメントの勉強が必要、構成メンバーも実効性のあるように考慮して考える。

- ・現在、地区計画の中に景観計画等の不備を補うために「歴史的界隈の保全」のような制度を導入していく。
- ・いつでもどこでもだれでも参加
 - ・自治活動として市民の参加を呼びかける。
 - ・NPOの参加を生かす方策を講じる。
 - ・企業の力を使う。
 - ・エリアマネジメントを前駆的に位置付けていく組織を作る。
 - ・現在の委員会や審議会をベースとして、そういったもの対してもエリアの代表として参加していくことも大事。
 - ・区民会議の議論を今後の総合計画や都市マスタープランに担保する仕組みを構築する。
 - ・情報の共有が大事。
- ・お金は大事だよ
 - ・予算の制度の中での使い道を見直す。
 - ・区の財政だけに頼らないまちづくりの仕組みや財源の確保手法の開発。
 - ・ソフトの運営に対する予算づけ。
 - ・まちづくりが実現する新しい予算組の仕組みの検討。
 - ・相続税の問題は保全型のまちづくりにはマイナス効果をもたらしているという事情から、保全型まちづくりを推進するまちにおける相続税の特例措置を検討する。
- ・第6分科会の「自分たちのまちは自分たちでつくる～自治制度～」の後半部分に第3分科会の意見が多く盛り込まれている。

：皆さんどうもありがとうございました。最初に窪田先生からお話ありましたように、日曜日に編集部会が行われて、そこで最終レポートの大項目、中項目、小項目の調整が行われることになっています。残された時間は大変短いです。今日のお話を聞いていると、まだまだずいぶん調整しなければいけないところが多いなという印象でした。これからどういうふうにしたらいいのか、まだ頭の中では整理されていませんが、今日あと1時間ちょっと残された時間がありますので、こんな風に各グループで議論をして頂けたら幸いです。ちょっと複雑になるかもしれませんが、第3分科会が独自に書けると編集部会で決めたところは、他の分科会が余程の注文をつけてこない限り、かなり自由に書ける事だと思います。「水辺と森の環」「景観は区民共有の財産」「地域に住み続けられる住宅・住環境」「公園・公共施設をみんなで育てよう」「車中心から人中心へ」これについては、第3分科会で中心になられた方に書いていただいていますので、それほど大きな問題はないかと思えます。ただ同じ第3分科会で議論したなかで、もうちょっとここを足して欲しいということがあれば、今日が最後のチャンスですので、それぞれのグループでメモを

書いていただいて、執筆者に後でお渡しするようにすると思います。むしろ、残された時間で議論しなければならないのは、第3分科会でかなり議論したにも関わらず、様々な事情で他の分科会に書いていただくという形で原稿を渡したところ、これは大きく分けて4つあったのですが「文化・歴史を都市の軸にする」「いのちを守る」「ぶらり新宿」4つ目は正確に言えば3つあるのですが、一括りにしていただいて、自治と参画の問題。大きく4つあって、第3分科会でこれだけ時間をかけて議論したものが、部分的にはまだ反映されていないんじゃないかというご指摘がありましたので、その辺について、3つのグループで、その通りだと思うのか、全体のバランスを考えたならこれもやむを得ないと思うのか、あるいは、さらにこういうことを追加してもらった方がいいのではないかということ、グループの中で意見交換して頂いた方がいいと思います。誤解を恐れずに申し上げれば、自分で担当したところは、これ絶対入れて欲しいと思ってしまう気持ちが強くなるのは当然ですが、全体を見た時にバランスが必要なこともありますので、第3分科会としてその辺はもっと追加すべきか、この程度でいいのではないかという事を言っていたかないと編集部で議論しにくいです。もっと具体的に言いますと、高梨さんご指摘の「文化・歴史」、大西さんご指摘の「防災」、吉田さんご指摘の「ぶらり新宿」、山下さんご指摘の「都市計画に関する自治の問題」は、ちょっと欠けているというご指摘がありましたので、その4つについて、グループリーダーの方に進行役になっていただいて1時間ちょっと議論していただいたら、我々引き継いで、世話人会あるいは編集部の方にさらに議論を進めたいと思います。私の個人的な意見では、防災のところ結構大きいと思いましたので、もしもの場合は中項目を1つ増やすという代案も持っています。ただ、今ここで僕が言えることではありませんので勝手な意見ですが、高梨さんと吉田さんのところは、書きっぷりがもう少し工夫があるなというニュアンスかと思います。是非その辺、3つのグループの中でちょっと議論していただけますでしょうか。それから、第3分科会の中で書くと決めた部分に関しては、高梨さん、川口さん、窪田さん、鎌田さん、松本さんに今日メモを渡すということをお願いします。

:今まで議論してきたグループが今分かれてしまっていますので、一緒に議論していいですか？

:はい、一緒にどうぞ。どんな細かいことでも構いませんので、何でも細かいことを書いて頂いた方がいいと思います。

(グループ討議)

:時間も押してきましたので、それぞれ5つの各テーブル、極めて短く簡潔に、テーブルでの議論についてご紹介していただきたいと思います。どなたから発表して

いただいても構わないのですが、どなたからお願いでしょうか。

：要点のみ。

：要点のみということですが、まだ書き足りないというか、表現していないことの中に、もうちょっと区民会議の位置付け、将来的なイメージが見えない。区民会議の結果をいろいろな区議会などで、担保するという話はあるにしても、区議会の他の委員会の中で、区民会議という公募で集まった人達の意見をどういった意味付けがあって、それを継続的に新宿区の区政の中で位置付けるとすると何なのか、考えないといけないという話が出ました。

：追加した方がいいということですか。

：追加した方がいいだろうと思います。そうでないとこの議論が曖昧だと思います。位置付け的には曖昧な部分がありますので、オンブズマンみたいな格好の組織でいくとか、あるいは総合計画とか区が大きな決め事をするときには、必ず区民会議を持たなければいけなくて、そこで議論しなければいけないなどときちっと制度の中に入れ込んでしまう。それから、地区協議会についての位置付けをもうちょっと人選の問題や規模の問題などありますが、地区協議会を区政の中のある意味の核にしていくとすると、かなり強い口調で述べないといけない。まだこの表現は甘いなど。それから、情報共有の話はまだ書きっぷりが弱い。区民の中での情報の共有などについて、他のところで書いていなければ、ここで書き足した方がいいでしょうという話が出ています。概ねそんなところですよ。

：防災関係の方から。だいぶ議論も白熱しました。やはり防災は、第3分科会で提案した方を載せてもらう。第6分科会と一緒にやれば言いたいことが薄れてしまうし、論点がずれてしまう。私が仮に作ってきたものを元に検討しましたら、やはりこっちの方が素晴らしいと。それは冗談としまして、出来るのであれば、第6の方は「安心・安全のまちづくり」という観点からやってもらって、私たちは「災害からまちと暮らしと命を守る」「減災社会を目指す」という項目で、新たに作っていただいた方がベストである。元々私たちは防災という観点で検討していたので、強い思い入れがありますのでお願いします。原案を出して行きます。

：次、お願いします。

：私が担当した部分、「ぶらり新宿」については、比較的取り込まれているので、概ねいいのですが、「道草のしたくなる楽しいまち」と言うより「素直に歩きたくなる楽しいまち」の方がいいのではないかと、という話が出ました。その他には、あまり大きな話しはありませんでした。

：第5分科会との整合性につきましては、第5分科会の文章自体が今迄にまだ中間報告しか見ていませんので、これからどうなっていくのかわからないので、議論のしようがなかったのです。私の書いた中では、プロット図を2枚出したのですが、その中で歴史の中では散歩道の中に縄文遺跡のことを盛り込みたいという事、現状

認識の為、歴史的建造物、路地などのプロット図が欲しいというような話しが出ていました。

：景観の方で、項目としてどうしても新宿区のシンボリック的な要素として、超高層を項目として別枠でどうしてもやっていただきたい。というのは景観に入れてしまうと、超高層のイメージがどうも薄くなってしまう。新宿といいましたら超高層という歴史のある新宿ですから、未来都市ということで、是非とも入れていただきたいと思います。

：2つあります。1つは「車中心から人中心へ」のところで路面電車、LRTの話があって、哲学堂から早稲田通りの案は現実的に無理だから提案から外せという話がありました。また、地域の人との話し合いもちゃんとしていないとご指摘もありました。導入の可能性を再検討した方がいいのではないのか。それから「われらの新宿」のところで、「お金は大事だよ」は実制度に網羅していますから、これは独立すべきじゃないかと考えています。そのうちの相続税の話がありますが、相続税は国税であり、この提案は違った表現にするかあるいは取り除いた方がいいと思います。それから「地区で考え地区で行動しよう」という、地区協議会の仕組みづくり案は、現在町会の加入率が55%なのに、あれもやるこれもやると仕事が出ているので、一人の人間が5つから8つくらいの仕事をしないといけなくなるという状況があるので、どうやって地域住民を参加させるのか問題があるので、参加しない事を考慮するのであれば、誰がその任を担うのかという事で疑問を感じます。

：もし言い足りなかった事があったら後でメモしてください。ただ、ちょっと気になったのですが、9班で検討してきたことと今のことはバッティングしませんか。第3分科会としてある方向を書いて、他の分科会とやるのはいいけど、第3分科会の中でちょっと違う意見だと、我々編集部会で調整しにくいので、今ここで議論した方がいいと思います。

：地区協議会の成り立ちについてですが、現在のままでは駄目が大前提にあります。ですから新しく作り直すのが大前提。条例や制度云々というのは、実効性を担保する為に作るということですので、ただ誰か住民が参加しているというイメージはないということです。制度としての地区協議会、コミュニティの分権の核としての地区協議会という位置付けをきちとうたわなければいけないというのを、補完性の原則という、身近なことが出来るなら自分たちでやりましょう、ダメなら次の手を使いましょう。ダメならば最後に、新宿区、あるいは東京都、あるいは国が動く段階を踏むときの一番初めの出足が地区協議会だという位置付けです。ですから、最後の話はたぶん、考え方の違い、位置づけの違いかと思います。それから、国税の話ですが、分権の話をするときに、現在の制度にこだわる必要はないのではないかと、相続税の問題点の話しをきちんとあげて、国税に頼れないのであれば、最大の難関なのでしょうけれども、海外の事例では市単位で相続税をやめてしまったとい

う話はよくありますから、逆に言えば日本の制度の限界がそこにあるのだろうと私は思っています、載せる、載せないというのは確かにあると思いますが、相続税がまちづくりなどのネックになっているという指摘だけはどこかで載せたほうがいいと個人的には思います。

：それは納得していますが、表現の方法をちょっと変えていただくかたちで。

：質問いいですか。LRTは結局、削除するという意見があったということですか。それとも削除するという方向が大勢なのでしょう。

：ご指摘ありがとうございます。私も気になっていました。

：それは私が強行にクレームをつけたのです。都知事と語る会に出席しまして、誰かがこの問題を取り上げたら、都知事は「何で今更そんな話をするんだ」と、すぐに潰されました。私自身も、西落合に住んでいますが、新青梅街道を拘束するような線路を走らせて、狭い道路に無理だということ、海外でやっているからといって、今更線路を引いてどうだというのか。考えただけでもわかるはず、片側一車線のあんな狭い所に拘束するような線路を引いてどうなる。人が歩くところは踏み切りでも作るのか。本当に作るの、という話を強行にしました。

：私は新宿区駅前周辺地区協議会の都市マスタープランの担当として、これをみなさんに是非検討してくださいという話しになっている。特定の路線がどうだとか、16メートル道路がどうだって話ではなくて、新宿駅前場合は30メートル以上の幅員があるときに検討したらどうかという、専門家を入れて、自分達も一緒になって、京都でも検討していますし、富山でも開業します。インターネットで引っ張ったら結構良いことが書いてあります。ですから、新宿区でも検討はしましょうということです。

：起草委員松本さん、どう判断しましょうか。

：絵が描いてあるから。

：これは、LRTだけじゃなくて、現場にいったら賛成、反対が多いことは沢山提案されていると思うのです。でも第3分科会として、LRTの問題を新宿で検討したらどうか、何処という場所ではなくて、富山ではこんなことをやっています、ヨーロッパではこんなことをやっています、この時代の中で一度はLRTを検討しましょう、ということを書くことはそんなに悪いことではなくて、書きっぱりの問題だと思うのです。具体的にここがと書くと問題がある。

：大げさに書くべきではない。

：大げさかどうかの問題で、基本的にはこれだけ検討してきたのだから、LRTの事は書きましょうよ。

：検討なんかしてないではないか。

：いやいや、検討してきました。

：落合地区に線路が描いてあるんです。落合地区の人達が誰も出ていないのに何で

線路を描くのですか。それが検討しているのですか。検討してないじゃないですか。

：区民会議の検討というのは、ここの現場に LRT がふさわしいか、実現性があるかどうかの検討までの検討ではないのです。LRT というものを新宿に導入することは、一回行政のレベルでもあるいは実現性のレベルでもやったらどうかという提案なんです。

：じゃあ絵を描かなければいい。

：絵を描くかどうかについては、起草委員と我々世話人とで相談しましょう。LRT の問題を全部削除してしまうのは、今までの経緯からしてちょっともったいない気がするけど。

：この前、落合地区に LRT を通す代わりにコミュニティバスを通すという案が出たのですが、それはどうになりましたか。

：書いてあります。入っています。

：LRT の問題を考える時は、コミュニティバスとか自転車の問題もセットで考えるのが新しい考え方で、常識みたいだから。

：常識って誰の常識ですか。常識って言わないで下さい。

：今新たに検討している人たちの中にはそうなんです。だから、我々はどうかということは、また改めて検討しなくてははいけない。

：他に何か、今日ご指摘された中で矛盾点ありましたか。10 点くらいご指摘がありました。日曜日までにどう処理をしようかと窪田先生とご相談をしましたが、3 通りくらいの方法があると思えました。1 つは大西さんご指摘の防災の部分ですが、一度は第 6 の方に書いてもらおうとしたのですが、なかなか両方のスタンスによって、うまく残された時間で調整しにくいという判断もあっていいと思うので、中項目に上げるという、あくまでも提案ですが、するという判断がひとつ。あと、基本的には第 6 に書いていただくけれど、まだ足りないから、この点この点、書いて欲しいというような、特に高梨さんご指摘の第 5 からまだ書いてきていない、明日にでも催促をして、日曜日までにちゃんとやってという催促をするという、追加の注文をする。それから、森田さんご指摘の超高層。これはあまり他の分科会と重なると思っていないくて、景観の問題だけで入れていたのですが、「未来的感性」「未来都市」「世界の中の新宿」賑わいを作ろうというところもあるので、そこに超高層のことを、盛り込んでもらおうという、新たな提案。その 3 つくらいに整理をして、日曜日に望みたいと思います。さらに、ご指摘がなかった点、後でいくつかペーパーでもらえるかと思いますが、我々で分類をして、我々の方で調整したいと思います。日曜日が本当に重要なので、お気づきの点があれば黒澤さんの方にメールで送ってもらえれば、出来る範囲で努力はいたします。高梨さんにお問い合わせが文化歴史の書いてない部分やはり、書いていただけますか。第 5 もいろいろと忙しいと思いますので、こっちで書けるものなら書いてぶつけた方がいいのではないかと思いますので、遅

くても前日くらいまでに。土曜日か金曜日に黒澤さんの方に送っていただけたら、日曜日に調整しやすくなりますのでよろしくお願いします。

：今日ご指摘いただいたご意見を直して、日曜日までに。

：書き直しでもいいか。赤を入れておいていただければ。

：そうではなくて、今ご指摘いただいた内容について、いつまでにやればいいのか。しょうか。

：高梨さん担当の部分でということです。日曜日に編集部会がありまして、全ての原稿を束ねて、編集部会と世話人が見ます。ですから、そこに入っていないとまずいので。ですから、土曜か金曜日までに。出来る限りいろんな途中の段階でいいから図面も入れたいのです。第3分科会はいろいろなハードの提案もしていますが、文章だけだとどうしてもわかりにくいので、ポンチ絵でもいいし、途中のものでもいいし、カラーの図面で入れたいとか、いい事例の写真があるからとか、そういうものもなるべく入れていきたいと思うのです。高梨さんのところも、図面が沢山あるので、縮小して見えにくくても、こんな凡例のものが入るといった方が調整しやすいと思います。

起草委員の方は少し残ってください。お願いします。

では、本日はお疲れ様でした。

次回

日時：5月18日（木） 18時30分から

場所：第2分庁舎1階 1 - 会議室

閉会